

PRESS RELEASE

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、5月18日(土)より国の登録有形文化財に指定された古川美術館分館爲三郎記念館にて高北幸矢インスタレーション「落花、未終景。」を開催いたします。

高北の椿を使って爲三郎記念館を空間演出します。2012年に開催した高北幸矢インスタレーション「落花の夢」から5年。高北の椿が再び開花します。

つきましては、貴社媒体にてご紹介いただきますようお願い申し上げます。

爲三郎記念館 特別展

高北幸矢インスタレーション

「落花、未終景。」

5月18日・土
～
7月15日・月



老いの“美”。癒しの“美”。終焉の“美”。 高北幸矢の未だ終わらぬ景色を。

“老いることは美しい”と飾ることはできない。“老いることは醜い”と悲しむこともできない。“老いることは、人生を豊かにする”と容易には言えない。しかし老いの先にある終わりを認識したからこそみえる未来を見てみたい。“美しく老い、豊かに終えてゆく”最後の美しさを実現するために。

作家の言葉より

都市におけるサイン計画などの社会的価値の高いデザインを創出してきた高北幸矢は、2012年よりアーティストとしてインスタレーションを展開してきた。

高北がインスタレーションを展開するきっかけとなったのは、15年程前に見た落花の椿の夢である。一面を覆い尽くす真っ赤な椿は地面におちてもなお、その命を輝かせていた。高北が椿を見ているのか、それとも椿に見られているのか。それはむせ返るような匂いさえも感じる夢であったという。その死してもなお咲き続ける椿に自らを重ね、《生きる力と美》を見出したのである。

本展では、丹念に彫り続けられた椿で高北の胸中にある二面性を表現する。光と影、陰と陽、美と醜、生と死。それらは互いに照らし合い、補いながら終焉の美しさへと昇華していく。最後の美しさを求めて進化する高北幸矢の椿が爲三郎記念館で開花する。



(図1)高北幸矢インスタレーション「落花、未終景」より

—アーティスト・高北幸矢—



1950三重県生まれ。
 1973三重大学教育学部美術科卒業。
 1977高北デザイン研究所設立。
 1989スペースプリズム設立。
 1998名古屋造形大学(元:名古屋造形芸術大学)教授。
 2006～2012名古屋造形大学学長版画家。
 現在:清須市はるひ美術館館長
 名古屋造形大学名誉教授
 愛知芸術文化協会理事

(図2)高北幸矢

個展

1972～2016 名古屋、東京、スペイン、台湾、アメリカなどで個展55回

- 2012 高北幸矢インスタレーション「落花の夢」古川美術館 分館 爲三郎記念館
- 2013 愛知トリエンナーレ平衡事業
高北幸矢インスタレーション「落花、夏の夢」古川美術館分館 爲三郎記念館
- 2014 高北幸矢「百椿展」スペースプリズム
高北幸矢版画展・水彩画展「春の恋花」三重画廊
高北幸矢版画展・水彩画展「遠い記憶の赤い花」瑞浪芸術館
- 2015 高北幸矢個展「遠い記憶に咲く花」ギャラリーいまじん
高北幸矢展「落花、湯籠り」ギャラリーゆこもり(長野)
高北幸矢インスタレーション「落花、入れ籠入る。」旧中埜半六邸
- 2016 高北幸矢インスタレーション「落花、鎮魂」ポラリス★ジ・アートステージ(神奈川県)
高北幸矢インスタレーション「落花、山麓」極小美術館
- 2017 高北幸矢インスタレーション「落花、奉納。」椿大神社
- 2018 高北幸矢インスタレーション「百年に、落花。」後楽荘

受賞:

環境デザイン大賞1998、1990優秀賞。デザインフォーラム'93銅賞。
 第21回愛知広告賞審査員特別賞。平成9年度名古屋市都市景観賞。クライアントアワード2007SMI JAPAN 等。

著書

- 「公共空間のデザイン」共著(大成出版者)
- 「KIJOSHOKUBUTU-SHI」(スペースプリズム)
- 「都市の増殖体」(スースプリズム)
- 「高北幸矢グラフィックデザイン」(高北デザイン研究所)
- 「きおくにさくはな」(風媒社)



見所1: インスタレーションの醍醐味

近年、高北幸矢は落花の椿を使い、インスタレーションを展開しています。

その椿は高北が15年ほど前に見た夢に由来します。

落花する椿の夢は高北に制作意欲を与えたほか、

アーティストとして歩む方向性も示しました。

その落花の椿に美しさと生きる力を見出した高北は

自身が受けた情感をインスタレーションで展開してきました。

場所や空間全体を作品として体験させる芸術であるインスタレーションは空間全体が作品であるため、鑑賞者は一点一点の作品を「鑑賞」するというより、作品に全身を囲まれて空間全体を「体験」できることが醍醐味です。

高北の椿をどのように感じ、考えるかは鑑賞者の心に委ねられます。

自由に感じ、自由に展示を解釈できるのも、インスタレーションの本展の見どころの一つです。

**見所2: 作家の死生観**

これまでの高北のインスタレーションは、開催場所から受ける場所のもつカや記憶などのインスピレーションが展示の主題となっていました。

しかし今回の展覧会では高北幸矢が昨今常に頭から離れない物事の二面性を椿を使って演出します。

古代中国に於いて陰陽説が尊ばれたように物事には相対する側面を持ちます。

光は影の存在によってより明るく見え、美しさは醜さによってより引き立ちます。

高北は椿に生きる力を見出しインスタレーションとして活動してきました。

その歩みの中で、“死”を意識するからこそ見えてくる“生”。

死を意識した先に見えてくる“生きる”という世界。本展はまさに高北の死生観を椿に委ねて演出します。

見所3: 三度目の挑戦

爲三郎記念館での3回目の開催となる本展は、高北にとっても新しい挑戦と、

これまで展開してきた椿のインスタレーションの集大成ともなります。

デザイナーとしての側面とアーティストとしての側面とが融合した高北の椿の世界観をお楽しみいただけます。

広報使用画像



※ご希望の方はご連絡ください

◆古川美術館

担当学芸員：林 奈美恵

電話：052-763-1991

mail : n_hayashi@furukawa-museum.or.jp

(図1)高北幸矢インスタレーション「落花、未終景」より

～アーティストトーク～

日時 | 6月13日(木) / 7月14日(日) 各日14:00～

参加費 | 無料(別途展覧会チケット必要)

会場 | 爲三郎記念館

※アーティストトークの後は近隣施設「アート倶楽部 カルチェ・ラタン」にて

高北幸矢個展「花惚」のアーティストトークを開催します。

～ギャラリートーク～

日 時 | 5月24日(金) / 6月22日(土) 各日15:00～

参加費 | 無料(別途展覧会チケット必要)

会 場 | 爲三郎記念館

展覧会のテーマを実体験

～新元号記念 黎明茶会～

日 時 | 6月6日(木)

時 間 | ①10:15 ②11:00 ③11:45 ④13:30 ⑤14:15 ⑥15:00

場 所 | 茶室「知足庵」

参加費 | 1,500円(別途展覧会チケット必要)

申込み | 電話、フロントにて受付

要予約

関連企画 アート倶楽部 カルチェ・ラタン主催

～高北幸矢版画展「花惚」～

古川美術館近隣施設、アート倶楽部 カルチェ・ラタンにて高北幸矢の版画を紹介する展覧会を連携企画として開催します。二つの会場で高北幸矢の世界観をお楽しみください。

日 時 | 5月21日(火)～7月15日(月・祝) 10:00～21:30

参加費 | 無料

場 所 | アート倶楽部 カルチェ・ラタン(名古屋市千種区池下町2-28 TEL052-751-8033)

※会期中は無休。

※レストラン・ティーラン時は月曜日と第三火曜日が休館

アート倶楽部 カルチェ・ラタンのイベント

～アーティストトーク～

日 時 | 6月29日(土) 17:00～18:00

参加費 | 無料

場 所 | アート倶楽部 カルチェ・ラタン(名古屋市千種区池下町2-28 TEL052-751-8033)

※このアーティストトークは予約が必要です。

展覧会情報

展覧会名称

爲三郎記念館特別展

高北幸矢インスタレーション「落花、未終景。」

会場

分館 爲三郎記念館

会期

2019年5月18日（土）～7月15日（月・祝）

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

主催

公益財団法人 古川知足会

後援

愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社、CBCテレビ
愛知芸術文化協会、スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社

協力

あいちトリエンナーレ2019パートナーシップ事業、beyond2020

休館日

月曜日

観覧料

大人1,000円 高・大学生500円 小・中学生無料【Pコード 769-614】

【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課直通)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

担当学芸員 林奈美恵 (n_hayashi@furukawa-museum.or.jp)

広報担当 学芸課 山内綾子 (a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)